

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

		チェック項目	はい	いいえ	無回答	工夫している点・課題や改善すべき点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8			利用定員に対する基準は満たしている。物の配置や部屋の使い方は活動によって変え、毎月点検をしている。
	2	職員の配置数は適切である	8			基準を満たしているが、グループや活動によっては配置以上に支援員を配置し余裕をもって対応が出来る
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	8			必要な場所に視覚的に分かりやすいように提示したり、集中が必要な時は場面に応じて刺激が少なくなるように工夫している。外部からもマジックミラーや小窓を工夫して活動が見やすい工夫をしている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	8			衛生面には十分配慮し、活動後の消毒（送迎車内も）を徹底している。活動に合わせケガや事故のないように危険個所に目を配っている。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	8			活動開始前と終了後に申し送りや反省を行い活動に関わる職員全員が把握できるようにしている。日報を使い、休みの職員への伝達漏れのないようにしている。また、毎回職員会を行い問題解決や業務改善に繋げている。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8			定期的に行う保護者との面談の中や送迎時に意向を把握し職員会の中で取り上げ、年1回のアンケートを取りその結果を全職員で共有し問題解決に繋げている。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8			自己評価表、保護者向け評価をホームページにて掲載し公表している。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5		3	法人本部にて確認後、評価結果を全職員で共有し業務改善に繋げている。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している				外部の研修にも積極的に参加し、不参加の職員には後日きちんと内容を伝える場を設けている。又、事業所内の研修は課題を持って定期的に行っている。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	8			保護者との面談、併行通所園での情報、来所指導での専門職からの助言を受けながら6か月ごとに計画作成している。
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8			事業所独自のアセスメントツールを活用し結果を共有し同じ方向を向いて子供ひとりひとりの困り事へ関わっている。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	8			個々に合わせて課題や目標を職員で共有し確認しながら支援内容を設定している。各項目ごとに支援目標の設定を明確にし、保護者にも分かりやすい計画を作るようにしている。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	8			活動前後のミーティングで当日の活動内容の中での個々の支援内容、留意点を確定している。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	8			毎月の職員会の中で子供たちの特性を一番にその中で、季節や行事等を考慮しながら固定化されないようにプログラム立案している。
15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8				

16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	8			小集団で活動でゆったりとした雰囲気の中で落ち着いて活動できるようにしている。自由遊びの中やその日の状況に合わせて職員配置の工夫をして活動を行っている。
17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8			週案を事前に配布し、日ごとに支援開始前に必ず打ち合わせを行い、その日の利用状況に合わせた支援内容、役割分担（送迎も業務も含め）を確認する。
18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8			午前、午後それぞれの活動終了時に活動に関わったすべての職員で振り返りを行い記録に残し、すべての職員がその情報を共有できるようにし、次回の支援へつなげている。
19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8			利用児の様子や支援内容を記録し、反省をもとにしながら次回への支援や活動の改善につなげる。
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	8			相談支援事業所とのモニタリングや担当者会、併行通所園さんからの情報、保護者の方との面談、職員会により、見直しの必要性を判断している。

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8			事前に職員会で個々の様子を共有し児童発達支援管理者と担当の職員が参加している。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	8			福祉課職員、保健師、教育員会など連会機関と必要に応じてその都度、連携をとりながら全職員で情報共有し支援をしている。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	5		3] 該当者なし
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	5		3	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8			必要に応じて出向き、情報を共有している。また逆に見学の受け入れも行っている。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6		2	保護者の意向に沿って移行シートの作成を行い保護者の要望があれば、学校見学へ同行する。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7		1	研修会への参加あり。やまびこ医療センターの事業所支援による助言を受け、職員のスキルアップに繋がっている。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	5		3	利用児のほとんどが保育園、幼稚園との併行通所のため機会を設けていない。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	5		3	定期的に日置市で開催されている会に積極的に参加している。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている				連絡帳、電話、送迎時や定期的な面会時に保護者の方と子供さんの状況や課題等を共有し合いながら支援している。
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	6		2	全体での保護者会や、保護者向けの講演会を実施し、欠席された保護者方への伝達や出席された保護者の方への振り返りの為に関連資料を作成配布し、全体周知している。	
保護者への	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている				利用契約時に説明している。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている				児童発達支援管理責任者が提供すべき支援に基づき計画作成し、説明を行い、その上で保護者の方に同意を得ている。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている				その都度行っている。個別の対応がほとんどで、意見の偏りや丁寧な内容説明ができるように、担当職員と児童発達支援管理責任者が必ず参加し、必要に応じて他の職員も参加している。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している				今年度は年1回全体での保護者会を開催しました。

説明責任等	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している				相談や申し入れがあった場合は、児童発達管理責任者が必ず対応し事業所全体で共有できる体制を取っている。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している				お便り、ホームページを通して活動の様子を発信している。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している				契約時に説明をし、個人場情報の取り扱いには十分注意している。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7		1	視覚から訴える絵カードや写真を取り入れ支援してる。保護者の方へも定期的な面談時などを利用して（現物を提示したりしながら）わかりやすく伝えるようにしている。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	6		2	個人情報の取扱い上、一般地域の方々へ開放する機会は考えていない。

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している				定期的にマニュアルをもとに活動の中で火災、地震、水難等の様々な訓練を各クラス取り入れている。日置市消防の協力により消火、通報訓練を行い助言受け、迅速な対応へ繋げている。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている					
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している					契約時確認し、その情報は記録に残し職員全員で共有している。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6		2		契約時、細かく確認するようにしている。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7		1		事例の合った場合は対応策を明確にし記録に残し、全職員で共有する。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている					マニュアルをもとに研修を行い、虐待防止についての共通理解を図っている。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	5		3		身体拘束の3要件を全職員が認識し、適切な支援につなげている。必要が生じた場合は、保護者へ事前の説明を行い同意を得た上で支援計画の中で明確にする。

